

第5回 Hands-on Training Workshop (Hands-on seminar in 9th HALS Group Meeting)

2018年10月20日開催

第9回 HALS グループミーティングでは、ハンズオンセミナーを開催いたしました。昨年開催したところ、実体験することで「非常に解りやすい」「貴重な経験ができた」と好評をいただいたセミナーは、本年度も昨年以上の大盛況となりました。講師を務めていただいた先生方のレポートでセミナーを振り返ります。

■コース内容

日時	コース No.	内容	定員	講師
10月20日(土) 13:30-14:00	A-1	HALS による結腸切除/肝彎・脾湾曲の脱転法	1	板橋道朗先生 (東京女子医科大学 消化器・一般外科)
10月20日(土) 14:00-14:30	A-2	HALS による低位前方切除	1	板橋道朗先生 (東京女子医科大学 消化器・一般外科)
10月20日(土) 13:30-14:00	B-1	HALS による大腸全摘	1	小川真平先生 (東京女子医科大学 消化器・一般外科)
10月20日(土) 14:00-14:30	B-2	HALS による大腸全摘	1	小川真平先生 (東京女子医科大学 消化器・一般外科)

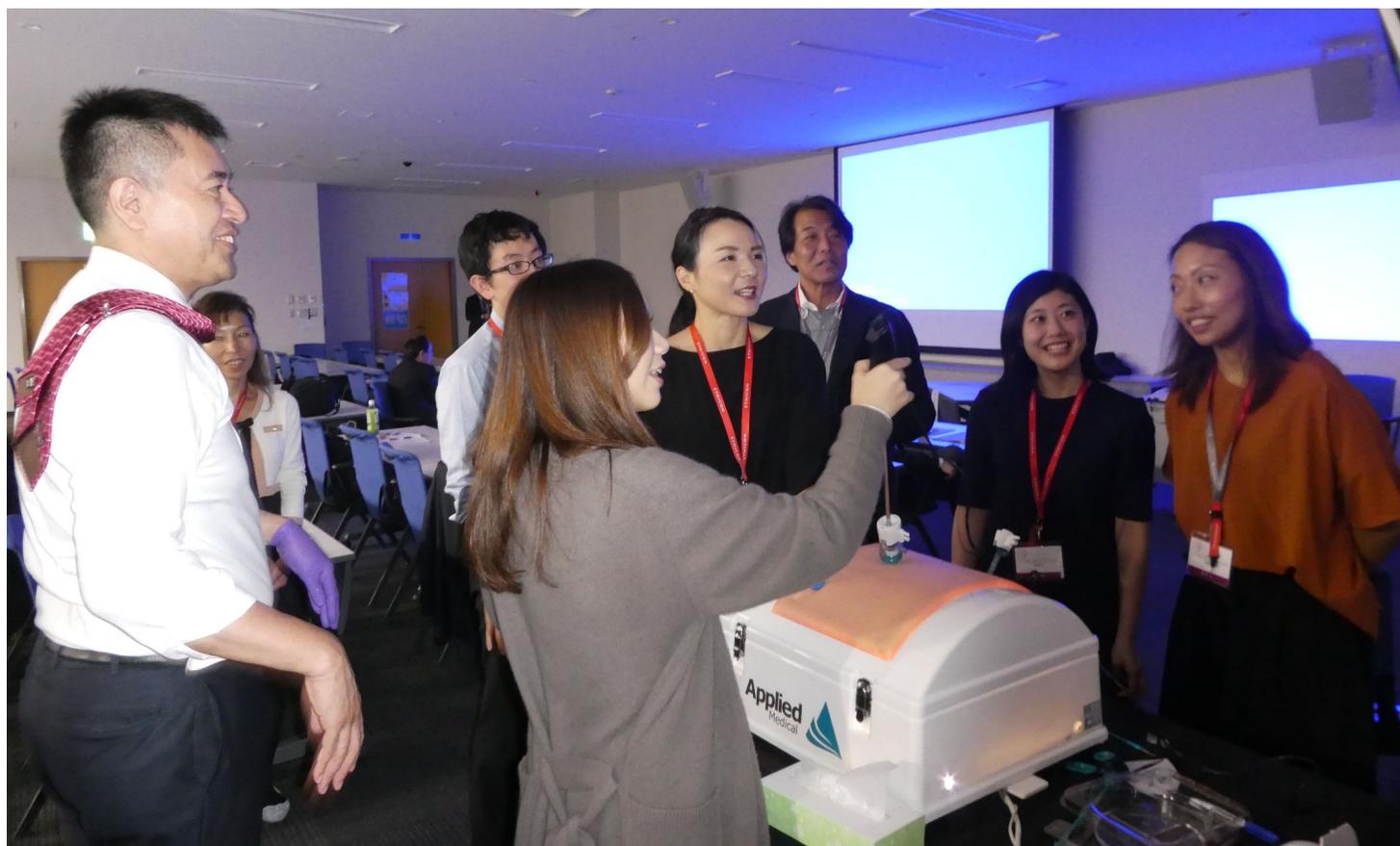
■ハンズオンセミナーを終えて／板橋道朗（東京女子医科大学 消化器・一般外科）

ハンズオンセミナーを開催させていただきました。HALS の扱いやすさを左右するハンドアシストのデバイスとカメラ、ポートの位置関係から始まり、実際のテクニックまで、とても熱心な受講生と時間を忘れて楽しませていただきました。



アプライドメディカルから提供していただいたシミュレーターは、実際の構造に極めて近く、腹腔内の working space や腸管の大きさなど とてもよく出来ています。今回は、これを使って脾弯曲部から左結腸の脱転法をテーマに私の HALS 手技を伝授いたしました。左手の角度の取り方やカメラ、操作ポートとの位置関係、剥離面のメルクマールなど、お話ししながら進めました。

受講していただいた方々は、とても真剣に、楽しく体験されていたように思います。周りにもたくさんのギャラリーが集まり、和気あいあいと HALS 手技、特に左手の使い方について質疑応答をしながら行いました。そうしているうちに、予定されていた時間はあっという間に過ぎてしまいました。受講された先生方、十分に堪能できましたでしょうか。



今回の様なドライラボでの講習でも十分な成果が挙げられるように感じております。今後は、研究会の同時開催だけでなく、講習会としてのハンズオンセミナーも考えていきたいと思ひます。最後に、いつもご協力していただきますアプライドメディカル社の方々へ深く感謝いたします。ありがとうございました。



■ハンズオンセミナーを終えて／小川真平（東京女子医科大学 消化器・一般外科）

グループミーティングの前にハンズオンセミナーが行われ、私は大腸全摘術を担当させていただきました。今回の講習で用いた模型の小開腹創は臍の位置より恥骨側にあったため、新たに臍の部分に小開腹創を作成しセミナーを開始しました。今回は大腸全摘ということで、直腸の剥離から開始し肛門測を切離後、S状結腸→下行結腸→横行結腸→上行結腸→回盲部の順で剥離を行い、最後に回腸を切離して標本を摘出していただくプログラムといたしました。



二人の先生にやっていただきましたが、どちらの先生も経験豊富な外科の先生で、左手の扱いは慣れておられ、うまく視野展開をして順々に腸管周囲を切離しておられました。一人あたりの講習時間は 30 分でしたが、時間をフルに活用して HALS 操作を思う存分満喫していただけたのではないかと思います。



二人の先生のセミナーが終了後、急遽、遠方から来られた先生も参加することになりました。あまり経験がないとのことでしたが、すぐにコツをつかまれて、下行結腸から脾弯曲を超え、横行結腸から肝弯曲部を超えるあたりまでの剥離を体験していただきました。結局、予定時間を大幅に延長することとなり、グループミーティングが始まるギリギリまでの、大変充実したセミナーとなりました。皆様ありがとうございました。また、この場を借りて、機材を提供していただきましたアプライドメディカル社の関係各位の方に感謝申し上げます。

